

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ウルガ

氏名のローマ字表記：WURUGA

所属：総合研究大学院大学

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：都市に移住したモンゴル族牧畜民の日常生活に関する人類学的研究—
子供の十二歳の宴会を事例に

内モンゴル自治区では 2000 年以降、中央政府によって「退牧還草」政策が実施された。これにより地方政府は地元の牧畜継続が困難と判断した地域において放牧を禁止した。そのため当該地域の大量の牧畜民が都市に移住させられるようになった。これまでの先行研究では、生態保護政策自体に関する研究のほか、生態保護政策が当該地域の人々にもたらした影響についても多く論じられてきた。特に、牧畜民を強制的に都市に移住させるのは、彼らにとって単なる生業転換や居住空間の移転だけではなく、モンゴル族としての文化、風習、言語、アイデンティティにマイナスの影響を与えていることが明らかにされてきた。しかし、これらの研究のなかで牧畜民たちの移住後の日常生活や彼らの都市での生活実態についてそれほど触れられていない。

そこで、本発表では内モンゴル自治区バインノール市ウラド中旗における国家の生態保護政策によって都市に移住したモンゴル族の牧畜民を対象に、彼らの都市での日常生活に着目する。特に近年彼らの間で頻繁に行われるようになった「子供の 12 歳の宴会」に焦点を当てて、宴会の流行した背景、宴会をするための準備、宴会の実施過程に対する分析を通じて、この宴会が果たしている社会的な役割について文化人類学的な視点から明らかにする。

本研究の結論として、「子供の 12 歳の宴会」は彼らにとって単に子供の成長を祝う儀礼であるだけでなく、彼らの都市生活での「富」や「成功」を表現できる一つの機会であると考えられる。同時に、彼らはこの宴会を利用して自分たちのエスニック・アイデンティティをさまざまな場面で強調している。また、宴会を催すことは、ホスト側にとって既存の社会関係を維持できるだけではなく、むしろ都市での新しい人間関係を構築するためにも不可欠なものであることが見える。